

I 事業の必要性

近年、社会が豊かで便利になる中、子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などのさまざまな「体験」が減少している状況をふまえ、子どもたちの健やかな成長にとって、体験がいかに大切であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高めることが必要である。

また、小学校の新学習指導要領では、長期の宿泊体験活動の実施を掲げているが、県内において十分な取り組みがなされている学校は数少なく、教職員をターゲットにした普及・啓発の取り組みが必要である。

以上の理由から、本事業を実施する。



II 事業の概要

1 ねらい

各分野の専門家が、提言や事例の発表を行うことで、広く家庭や社会、学校へ体験活動の重要性を発信し、子どもたちへの体験活動の普及・啓発を図り、健全な児童生徒を育成することが目的である。

2 実施日 平成25年1月27日(日)13:20~17:00 (日帰り)

3 場 所 沖縄県立糸満青少年の家

4 参加対象及び募集人員

学校教育関係者 教育行政関係者 青少年団体関係者 民間教育団体関係者(自然学校等)
青少年教育施設職員 保護者等子どもの体験活動に興味・関心のある方

5 参加状況 80名

- ◆ 種 別 学校関係23名 教育行政関係14名 青少年団体関係10名
青少年教育施設職員14名 PTA・保護者16名 大学生3名
- ◆ 性 別 男性62名 女性18名
- ◆ 年代別 20代 11名 30代 13名 40代 36名 50代 11名 60代 9名
- ◆ 地域別 沖縄県79名 県外1(東京都)

6 実施上の留意事項

- (1) 基調講演では、「なぜ、体験活動が必要なのか？」に焦点を当てた内容とした。
- (2) 多くの分野の取り組みを紹介し、今後の活動の参考にできる内容とした。

7 講師

- (1) 基調講演「体験活動の意義と有用性」
講師：柳 敏晴 氏(公立大学法人名桜大学教授)
- (2) 研究発表・パネルディスカッション「子どもの頃の体験の重要性と体験の機会の提供」
パネリスト
藏根美智子 氏(沖縄県教育庁生涯学習振興課長)
三田井 裕 氏(琉球大学教育学部附属小学校副校長)
中根 忍 氏(やんばるエコツーリズム研究所代表)
吉田 章 氏(元筑波大学大学院教授)
コーディネーター
平野 貴也 氏(公立大学法人名桜大学准教授)

8 日程

受付 12:40

開会 13:20

主催者挨拶 国立沖縄青少年交流の家所長 佐藤 良一

基調講演 13:30~15:00

研究発表・パネルディスカッション 15:15~16:55

閉会 17:00

9 活動のようす

〈基調講演〉



《講演中の柳講師》



《真剣に聞き入る参加者》



《アクティビティを取り入れて①》



《アクティビティを取り入れて②》



《基調講演》

《研究発表・パネルディスカッション》



《コーディネーターの紹介》



《パネリストの紹介》



《パネリストの藏根美智子氏》



《パネリストの三田井裕氏》



《パネリスト：中根忍氏》



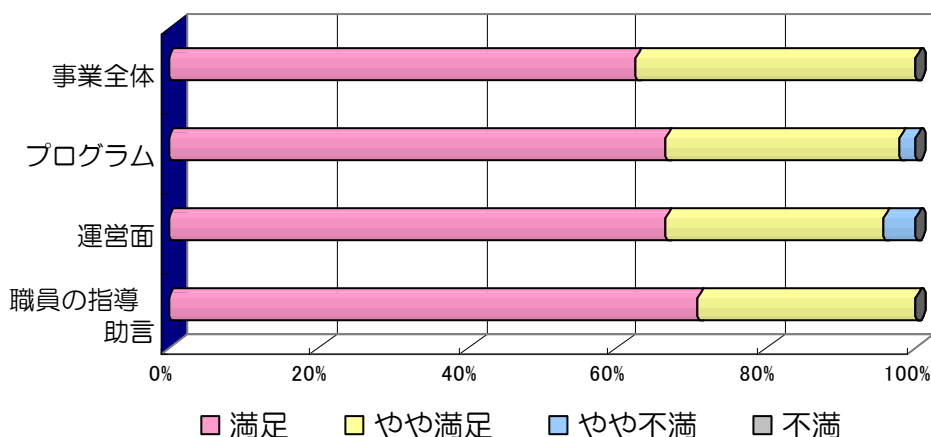
《パネリスト：吉田章氏》



《進行役の平野貴也氏とフロアー》

10 アンケートより

(1)満足度



(2)参加者の声

〈良かった点〉

- ・これから子ども達の指導者になる立場として、とても為になるフォーラムだった。
- ・体験活動は教育に欠かせないものであることがよく理解できた。
- ・子どもの頃の体験が大人になった時にどのように役立っているのか、必要性について再認識できた。
- ・様々な立場の方々の実践を聴くことができ、今後の取り組みの参考になった。
- ・体験活動の様々な可能性を感じることができた。

〈改善すべき点〉

- ・時間配分がうまく調整されず、事例発表中心で議論が深まらなかった感がある。
- ・配付された資料がばらばらで見づらかった。
- ・「地域」というキーワードが無かった。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

- ・体験活動に興味関心のある様々な分野の方が一堂に会すことで、ネットワークが広がった。
- ・体験活動の良さや必要性などが参加者の多くに理解してもらえた。
- ・「フォーラムの内容が大変良かった。フォーラムの拡大、巡回フォーラムを実施しては」との積極的な意見があったことで、普及・啓発活動の重要性を再認識できたこと。

2 今後の課題

- ・各地域で活動する方々への参加呼びかけを積極的に行う必要がある。
- ・「ディスカッションの時間が短かった」、「質問の時間が欲しかった」などの要望があり、ゆとりを持った時間設定が課題である。
- ・参加者を増やすことが課題である。そのため、実行委員会を組織し、各団体関係者の積極的な参加を促すなどの方策を検討する必要がある。
- ・資料は出来る限り事前に一つにまとめて配付する。
- ・今回、小学校の学芸会開催の時期と重なり、学校関係の参加者が予想を下回った。次回、開催時期の検討が必要と考える。

Ⅳ 終わりに

今回、「体験の風をおこそう運動」を広く認知してもらい目的で、事業名を変更して実施した。

事前の参加申し込みが少なく、当日、どの程度の参加者になるか心配だったが、沖縄県教育委員会生涯学習振興課の強力なバックアップもあり、会場の席は、ほぼ、参加者で埋まり、担当としてはほっとした。

また、会場となった糸満青少年の家職員には、駐車場他準備面で御尽力頂き、感謝します。

最後に、参加者の感想から事業実施の手応えはあったので、次回、更にバージョンアップした企画で実施したい。